

科目名	基礎はり実技 Basic Acupuncture Practical Skills	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	120 4	開講区分	前期
【授業の学習内容】							
<p>基礎はり実技では”はり術”の基本的操作の修得を図りながら日常的な臨床で使用する基本的な刺鍼手技を身につける。はり術の基本的操作を行う上で必要な以下の項目についても合わせて習得し、説明できるようにする。</p> <p>①鍼の基礎知識 ②刺鍼の方式と術式 ③特殊鍼法 ④鍼の臨床応用 ⑤リスク管理</p> <p>実務実績 POSC、鍼灸院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う 資 格 はり師・きゅう師</p> <p>実務実績 付属治療院での患者の受付、診察から治療までの業務を行う 資 格 はり師・きゅう師</p>							
【到達目標】							
<p>①はりの基本的な操作を行うことができる。</p> <p>②正確かつ安全(衛生的)に刺鍼操作することができる。</p> <p>③日常臨床で使用する刺鍼技術と種類の違いを説明でき、行うことができる。</p> <p>④特殊鍼法の特徴を説明できる。</p> <p>⑤医療従事者に求められる身だしなみや配慮について理解する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	医療従事者に求められる身だしなみ・言葉遣いについて説明できる。鍼術の定義、鍼の道具について説明できる。
2回目	鍼術の方式と術式について説明できる。両手挿管法の実技を行う。
3回目	揉法、押手、立管、切皮、弾入の動作の実技を行う。
4回目	両手挿管から切皮、弾入までの一連の流れの実技を行う。
5回目	両手挿管から切皮、弾入までの一連の流れから旋撚刺法の実技を行う。
6回目	両手挿管を行い、連続性をもって旋撚刺法の実技を行う。
7回目	両手挿管を行い、連続性をもって重点的に旋撚刺法の実技を行う。
8回目	両手挿管を行い、連続性をもって重点的に旋撚刺法の実技を行う。
9回目	両手挿管を行い、連続性をもって重点的に旋撚刺法の実技を行う。
10回目	両手挿管、揉法、押手、切皮弾入、抜管、刺入・抜鍼動作の到達度確認を行う。
11回目	両手挿管、揉法、押手、切皮弾入、抜管、刺入・抜鍼動作の到達度確認を行う。
12回目	片手挿管法、つの字の実技を行う。
13回目	片手挿管法、つの字の実技を行う。
14回目	片手挿管法を行い、旋撚刺法の実技を行う。
15回目	片手挿管法を行い、旋撚刺法の実技を行う。
準備学習 時間外学 習	授業の学習内容に記載している①～⑤に関しては教科書ならびに参考図書に熟読した上での受講が望ましい。 J-WEB 動画配信コンテンツ内の1年実技を視聴し、刺鍼練習台を利用し練習を行うこと。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へ のメッセー ジ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書	はりきゅう理論 医道の日本社 出版
参考書	図解 鍼灸療法技術ガイド 文光堂 出版
J-WEB	動画配信コンテンツ

科目名	基礎はり実技	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	
	Basic Acupuncture Practical Skills	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120 4	開講区分	前期
学科・コース	鍼灸科					曜日・時限	
<b>【授業の学習内容】</b> 基礎はり実技でははり術の基本的操作の修得を図りながら日常的な臨床で使用する基本的な刺鍼手技を身につける。 はり術の基本的操作を行う上で必要な以下の項目についても合わせて習得し、説明できるようにする。 ①鍼の基礎知識 ②刺鍼の方式と術式 ③特殊鍼法 ④鍼の臨床応用 ⑤リスク管理 実務実績 POSC、鍼灸院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う 資格 はり師・きゅう師 実務実績 付属治療院での患者の受付、診察から治療までの業務を行う 資格 はり師・きゅう師							
<b>【到達目標】</b> ①はりの基本的な操作を行うことができる。②正確かつ安全に刺鍼操作することができる。③日常臨床で使用する刺鍼技術と種類を理解する。 ④実技における身だしなみについて理解する。							

授業計画・内容	
16回目	片手挿管法を行い、送り込み刺法の実技を行う。
17回目	片手挿管法を行い、送り込み刺法の実技を行う。
18回目	片手挿管法を行い、送り込み刺法の実技を行う。
19回目	片手挿管法を行い、連続性をもって重点的に送り込み刺法の実技を行う。
20回目	片手挿管、揉法、押手、切皮弾入、抜管、刺入・抜鍼動作の到達度確認を行う。
21回目	片手挿管、揉法、押手、切皮弾入、抜管、刺入・抜鍼動作の到達度確認を行う。
22回目	刺入法、刺鍼の角度、刺鍼中の17の手技について説明できる。刺鍼の角度、刺鍼中の17の手技の実技を行う。
23回目	特殊鍼法(小児鍼、皮内鍼、円皮鍼)について説明できる。特殊鍼法(小児鍼、皮内鍼、円皮鍼)の実技を行う。
24回目	特殊鍼法(灸頭鍼、その他の鍼法)について説明できる。特殊鍼法(灸頭鍼、その他の鍼法)の実技を行う。
25回目	特殊鍼法(低周波鍼通電療法)について説明できる。特殊鍼法(低周波鍼通電療法)の実技を行う。
26回目	鍼療法の刺激量、感受性、鍼療法の適応症、禁忌、副作用について説明できる。
27回目	鍼療法の過誤と副作用について説明できる。
28回目	両手挿管、片手挿管による旋撚刺法、送り込み刺法を行う。
29回目	両手挿管、片手挿管による旋撚刺法、送り込み刺法を行う。
30回目	両手挿管、片手挿管による旋撚刺法、送り込み刺法を行う。
準備学習 時間外学 習	授業の学習内容に記載している①～⑤に関しては教科書ならびに参考図書に熟読した上での受講が望ましい。 J-WEB 動画配信コンテンツ内の1年実技を視聴し、刺鍼練習台を利用し練習を行うこと。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へ のメッセ ージ	
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b> 教科書 はりきゅう理論 医道の日本社 出版 参考書 図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ 文光堂 出版 J-WEB 動画配信コンテンツ	

科目名 (英)	基礎はり実技 Basic Acupuncture Practical Skills	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120 4	開講区分 曜日・時限
						後期

<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>基礎はり実技では”はり術”の基本的操作の修得を図りながら日常的な臨床で使用する基本的な刺鍼手技を身につける。 はり術の基本的操作を行う上で必要な以下の項目についても合わせて習得し、説明できるようにする。</p> <p>①鍼の基礎知識 ②刺鍼の方式と術式 ③特殊鍼法 ④鍼の臨床応用 ⑤リスク管理</p> <p>実務実績 POSC、鍼灸院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う 資 格 はり師・きゅう師</p> <p>実務実績 付属治療院やPOSC、鍼灸院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う 資 格 はり師・きゅう師</p> <p>実務実績 付属治療院での勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う 資 格 はり師・きゅう師</p> <p>実務実績 鍼灸院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う 資 格 はり師・きゅう師</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>①切皮痛や刺痛を伴わない刺鍼操作ができる。 ②正確かつ安全(衛生的)に刺鍼操作することができる。 ③日常臨床で使用する刺鍼技術と種類の違いを説明でき、行うことができる。 ④特殊鍼法について説明できる。 ⑤医療従事者に求められる身だしなみや配慮について理解する。</p>						

授業計画・内容	
31回目	鍼施術に関わるリスク管理(感染症対策)について説明できる。施術者の手指洗浄、消毒、患部の消毒、器具の衛生的取扱いについて実技を行う。
32回目	鍼施術に関わるリスク管理(過誤副作用、処置予防)について説明できる。片手挿管法による送り込み刺法にて直刺の実技を行う。
33回目	片手挿管法による旋撚刺法にて直刺の実技を行う。
34回目	片手挿管法による旋撚刺法にて直刺の実技を行う。
35回目	片手挿管法による旋撚刺法にて直刺の実技を行う。
36回目	人体(下肢)へ送り込み刺法にて直刺の実技を行う。
37回目	人体(下肢)へ送り込み刺法にて直刺の実技を行う。
38回目	人体(下肢)へ送り込み刺法にて直刺の実技を行う。
39回目	人体(下肢)へ送り込み刺法にて直刺の実技を行う。
40回目	片手挿管、揉法、押手、切皮弾入、抜管、刺入、抜鍼動作、直刺の到達度確認を行う。
41回目	片手挿管、揉法、押手、切皮弾入、抜管、刺入、抜鍼動作、直刺の到達度確認を行う。
42回目	人体(下肢)へ送り込み刺法にて直刺の実技を行う。
43回目	人体(下肢)へ送り込み刺法にて直刺の実技を行う。
44回目	人体(下肢)側面へ送り込み刺法にて直刺の実技を行う。
45回目	人体(下肢)側面へ送り込み刺法にて直刺の実技を行う。
準備学習 時間外学習	授業の学習内容に記載している①～⑤に関しては教科書ならびに参考図書に熟読した上での受講が望ましい。 J-WEB 動画配信コンテンツ内の1年実技を視聴し、刺鍼練習台を利用し練習を行うこと。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>教科書 はりきゅう理論 医道の日本社 出版 参考書 図解 鍼灸療法技術ガイド I 文光堂 出版 J-WEB 動画配信コンテンツ</p>	

科目名 (英)	基礎はり実技 Basic Acupuncture Practical Skills	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120 4	開講区分	後期
【授業の学習内容】							
<p>基礎はり実技でははり術の基本的操作の修得を図りながら日常的な臨床で使用する基本的な刺鍼手技を身につける。はり術の基本的操作を行う上で必要な以下の項目についても合わせて習得し、説明できるようにする。</p> <p>①鍼の基礎知識 ②刺鍼の方式と術式 ③特殊鍼法 ④鍼の臨床応用 ⑤リスク管理</p> <p>実務実績 POSC、鍼灸院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う 資 格 はり師・きゅう師</p> <p>実務実績 付属治療院やPOSC、鍼灸院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う 資 格 はり師・きゅう師</p> <p>実務実績 付属治療院での勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う 資 格 はり師・きゅう師</p> <p>実務実績 鍼灸院などでの勤務、患者の受付、診察から治療までの業務を行う 資 格 はり師・きゅう師</p>							
【到達目標】							
<p>①安全かつ衛生的に相手に切皮膚・刺痛を与えないように刺鍼できる。</p> <p>②指定された刺入操作で安全に刺鍼できる。</p>							

授業計画・内容	
46回目	刺鍼による生体反応(筋緊張など)を確認する実技を行う。
47回目	人体(下肢)へ横刺の実技を行う。
48回目	人体(下肢)へ横刺の実技を行う。
49回目	クリーンニードルテクニック(CNT)の目的を説明できる。人体でCNTの実技を行う。
50回目	人体(下肢)へ横刺の実技を行う。
51回目	人体(下肢)へ横刺の実技を行う。
52回目	人体(下肢)へ横刺の実技を行う。
53回目	人体(頭部)へ横刺の実技を行う。
54回目	人体(頭部)へ横刺の実技を行う。
55回目	片手挿管、揉法、押手、切皮弾入、抜管、刺入、抜鍼動作、横刺の到達度確認を行う。
56回目	片手挿管、揉法、押手、切皮弾入、抜管、刺入、抜鍼動作、横刺の到達度確認を行う。
57回目	人体(腰部)への刺鍼を行う。
58回目	灸頭鍼の目的や方法、注意事項について説明できる。灸頭鍼の実技を行う。
59回目	人体(腰部)への刺鍼を行う。
60回目	人体(腰部)への刺鍼を行う。
準備学習 時間外学 習	授業の学習内容に記載している①～⑤に関しては教科書ならびに参考図書に熟読した上での受講が望ましい。 J-WEB 動画配信コンテンツ内の1年実技を視聴し、刺鍼練習台を利用し練習を行うこと。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へ のメッセ ージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書	はりきゅう理論 医道の日本社 出版
参考書	図解 鍼灸療法技術ガイド I 文光堂 出版
J-WEB	動画配信コンテンツ